

エディット30周年――忘年会あいさつ

2019年12月19日

こんばんは。エディットの皆さん、ゲストの皆さん、きょうはエディットの忘年会に参加していただき、ありがとうございます。

いままでのエディットの忘年会は、名古屋、東京、大阪とそれぞれの事務所の地域ごとに行ってきました。

それは、私の考えている忘年会はそれぞれのオフィスでお世話になっている外部の皆さんへの感謝の会、お礼の集まりにしたいという思いからです。

昨年も名古屋、東京で忘年会、大阪は新年会でしたが、3か所で感謝の会を行いました。

しかし今年の忘年会は、久しぶりに名古屋で全体忘年会、合同忘年会をやろうと思いましたが、

1つには東京も大阪も新しい人が増え、まだエディットの名古屋本社に来たことがない人がけっこういます。

そういう人に、ぜひエディットの本部を見て欲しいと思いました。

そしてもう一つの大きな理由があります。

そうです。

今年でエディットは会社を作って30年になります。

きょうは、その記念の忘年会だからです。

エディットを作って30年になりました。

皆さんの中では、まだ30歳になっていない人も何人かいます。

年齢を尋ねるのはあまり良くないですが、

きょうはいいでしょう。

まだ30歳になっていない人は、手を上げてくれませんか。

はい、ありがとうございます。

皆さんが生まれる前から、エディットはありました。

外部からは、大々的に30周年の祝う会をやったらという意見や提案もあります。

しかし、私はそのつもりはありません。

そういう「威張り賃」を払う気持ちは、私にはありません。

しかし、できるだけささやかにでも30年のけじめをつけたいなと思っていました。

それがきょうの忘年会です。

話は変わりますが、皆さん、なぜエディットは30年を迎えることができたと思いますか。

皆さん一人ひとりにぜひ聞いてみたいなと思います。

私はエディットを作るとき、3～4年、続けばいいかなと思っていました。

私はエディットを作る前、3つの会社のサラリーマン編集者でした。

しかし3つとも倒産してしまいました。

私の頭の中には、会社はそんなに長く続くものではないなという認識がありました。

もちろん世の中には30年どころか100年以上続けている会社はいくらでもあります。

それに比べれば、エディットはまだまだひよっこの会社です。

30年前、4人でスタートした会社ですが、いま70人、規模も大きくなり、業界の中でも

認められてきました。

30年、エディットはなぜやってこられたんでしょうか。

皆さんもぜひ考えて欲しいと思います。

もちろん私の力ではありません。

まずは、仕事を出してくれるお客さん、出版社さんのおかげです。

クライアントさんがいなければ、会社は成り立ちません。

いま100社以上、お付き合いのある会社があります。

ありがたいことに業界大手の会社が上位に入っています。

まずはそうした継続したお客さんがあって、成り立ってきました。

クライアントさんの次はもちろん皆さんです。

社員の皆さん、パートの皆さんが頑張っていたので、クライアントさんも喜んで継続して仕事を出してくれています。

いまでも皆さんのおかげで会社を続けていくことができます。

それから、忘れてはいけないのは、協力会社の皆さん、外部スタッフの皆さん、税理士のT先生や社労士のSさん、経営顧問の先生がたです。

きょうも何人かの皆さんにゲストとして来ていただいています。

社労士のSさんはエディットを作る前、40年近いお付き合いです。

高校の国語の先生をしていて、執筆者としてのお付き合いが始まりです。

そうした皆さんの支えがあって、30年、やって来れました。

もちろん私の健康や運、時代の流れもあったと思います。

私は会社をやっていくには「夢」と「危機感」の両方が必要だとよく言います。

「夢」は「目標」です。

それは初めから決まっていました。

日本一の編集プロダクションを作ろうということです。

しかし、私は「危機感」のほうが大事だと思っています。

別の言葉で言えば、「心配力」です。

来月、ちゃんと給料が払えるだろうか、

この仕事が終わったら、次はどうなるだろうか、

など、いつも心配してきました。

いまでも心配や危機感はいっぱいあります。

私がいつも口癖のように言う言葉があります。

忍耐・辛抱・我慢

思いつく・思いやる・思い切る

心配り・目配り・心配り

夢よりも危機感

明日よりも今日

威張り賃は払わない

など。

これらは危機感や心配力がもともになっている、私の生き方です。

さて、これからのエディットはどうなるだろうか。

どういう方向に向かっていくべきだろうか、

それを語り始めると、さらに長くなるので、やめておきますが、3つ、キーワードを言っておきます。

1つは、「プライベートカンパニーからパブリックカンパニーへ」です。

いままではどちらかというと、エディットは私が中心の会社でした。

しかし、これからは幅広く皆さんが中心の会社、皆さんが主役になる会社、企業としてもきちんと安定した組織になっていく必要があります。

2つめは、「エディットからエディネットへ」です。

これは、さらにさまざまな人たちとネットワークを作り、仲間作りを行い、その集団力、全体力で、新しい航海を目指していくということです。

じつは、30年前、会社を作るとき、社名を30以上、考えました。

けっきょくシンプルな「エディット」にしましたが、最後までこだわった名前は「エディネット」でした。

「エディーズネットワーク」の略です。

私のメールアドレスは、edinet.co.jp になっています。

3番目は、「知名度アップからブランド力アップへ」です。

エディットの名前は、業界ではそれなりに知られてきました。

しかし、それは「成長」ではなく「膨張」した結果です。

まだまだ真の力は弱いと思います。

一人ひとりが一流のエディターをめざして、力を磨き、質・量ともにクオリティの高い会社になっていく、それが最大の課題です。

エディットに頼めば、一流の教材、一流の本、一流のコンテンツを作ってくれる、という「ブランド力」を磨きあげていくことが大切です。

「パブリックカンパニー」「エディネット」「ブランド力」、

社員の皆さんには、ぜひこの3つのキーワードを頭に入れて欲しいと思います。

きょうはゲストの皆さんに、バラしてしまいましたが、ご挨拶で、今年1年を振り返って、どんな年だったか、漢字1字で表してもらおうことにしています。

皆さんがどんな1字を語られるか、とても楽しみです。

エディットは30年、その1字は変わっていません。

名刺にもありますが、「縁」です。

きょうの集まりも「縁」です。

「縁」を大事に30年、会社をやってきました。

それは、これからも変わりません。

今夜も「縁」に感謝して、楽しい忘年会を過ごしたいと思います。

皆さん、ありがとうございました。

<メモ>

プライベートカンパニーからパブリッシングカンパニーへ

エディットからエディネットへ

知名度アップからブランドアップへ

忍耐・辛抱・我慢

思いつく・思いやる・思い切る

気配り・目配り・心配り

夢よりも危機感

明日よりも今日

威張り賃は払わない

威張りたいときは自分のお金で

運

版元・クライアント→社員・従業員→協力会社・外部スタッフ→健康→運→時代の流れ→

危機感・心配→努力

「運によって生き方が変わるのではない。生き方によって運が変わるのです」（荒了寛）

強いものが勝つのではなく、弱いものが勝つ

エディットはもったいない会社だと思う

――

今年で30年

さらに新しい航海へ！

エディット再スタート！